おおはしごん

新会長あいさつ

一般社団法人
島根県作業療法士会
新会長　小林　央

平素より島根県作業療法士会の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。平成 29 年 6 月 4 日に開催されました平成 29 年度島根県作業療法士会総会において議案承認をいただき新たに島根県作業療法士会代表理事（会長）に選任いただきました。泉会長をはじめ先人の方々のご尽力で平成 24 年に一般社団法人化した当会がここから更に成熟する過程の一歩に少しでも寄与できればと考えております。

2025 年に向けて今、島根県では 19 市町村のそれぞれで地域支援事業の取り組みにリハビリテーション専門職の起用を検討いただいております。6 月時点においても住民主体の通いの場の運営支援や地域ケア会議における助言者派遣など多様な依頼を作業療法士宛てに受けております。こうした場へ作業療法士の知見を活かすことは、最も大きな作業療法の広報効果を得るはずです。

新たに編成した理事会を中核としながら会員の皆様とともに、特別支援教育における作業療法実践、認知症における作業療法支援の実際、学術団体としての活動実践、災害対策と作業療法、作業療法士の卒後教育の充実、士会の組織強化と会員間連携など数え上げればきりのない課題を一つ一つ取り組み、広く見える化することがわたしに課せられた役割の一つであると認識しております。

未熟者が任を務めますため至らぬことも多いと存じますが、すべての会員の英知を結集して島根県の作業療法がより発展するよう尽力いたします。

なにとぞご協力くださいますようお願いいたします。

泉元会長あいさつ 「雑 感」

一般社団法人　島根県作業療法士会
前会長　泉　靖司

早いもので昭和 55 年から 37 年勤務し、今年の３月末に島根県立こころの医療センターを定年退職しました。その間に多くの方との出会いと支えがあり、この日を迎えることができたことを心から感謝しています。

私が就職した頃は全国の作業療法士は約 500 名、山陰にある精神科病院はほとんどの病院が作業療法の開設から関わる状況でした。作業療法の専門性について迷ったり、不安になると相談できる人はなく、同僚の他職種と語りながら理解を求めていきました。そのような状況で島根県作業療法士会が発足し、作業療法士の仲間がいる喜びと感動は、今の県士会員には想像ができないと思います。

就職した当時、自分が目標とする将来の作業療法士像は、学生時代の臨床指導者と卒後研修で出会った先輩作業療法士でした。幸いに私が出会った方々は、作業療法の専門性や臨床に対する姿勢に熱い情熱や高いプロ意識を持った人でした。一言一言語られる言葉に勇気づけられたり、感動し、憧れを持つことができました。現在のように、より高度な専門性やエビデンスを求められる医療の中で実施する作業療法とは、多少周囲の状況が違っていたように思います。

今は、根拠に基づく作業療法を実施していくための知識や技術を習得する環境が整っています。臨床経験の豊富な作業療法士の方は、皆さんを目指して歩んでいる後輩作業療法士に、現状だけで満足することなく、情熱やプロ意識を持ち続ける大切さを伝えてください。

若い年代が求める理想的な作業療法士像は時代の流れから様々に変化してきたと思いますが、時代は変わってもいい先輩との出会いが、その後の作業療法人生を大きく左右することは変わらないと思います。日々実施している作業療法を振り返る機会を持ってください。

残念なことに最近の研修会状況をみると、リーダー的な年代の作業療法士の参加が減少傾向にあります。もう一度原点に戻って、期待や要望に応えていく、スキルの高い作業療法士を目指し続ける努力を期待しています。

終わりに島根県作業療法士会が、今後益々活気のある会になることを祈念しております。

一般社団法人 日本作業療法士協会
平成 29 年度　定時社員総会へ参加報告

代議員　楠田　敦子　小林　央

平成 29 年 5 月 27 日（土）開催された一般社団法人 日本作業療法士協会平成 29 年度定時社員総会に出席いたしました。

平成 29 年度重点活動項目は協会ホームページにも掲載されていますが、「各地で展開される地域包括ケアシステムの体制づくりへの貢献とそれに資する人材の育成」と題され、今年度より更に動きが活発化している新総合事業、地域リハビリテーション事業等への参画について、更なる会員の理解と実践・参画が望まれている。

第二次作業療法五ヵ年戦略（2013-2017）に続く次期中期計画策定や作業療法定義の改訂、多分野における作業療法の有効活用促進に向けた取り組みなど作業療法の質とその可視化をさらに進める事業計画が承認された。やるべき課題は山積し、全国の会員が団結して作業療法の発展に寄与できる機会も大いにある。国と協会はスピード感を持って動いている。島根県士会においても 47 都道府県委員会を通じて全国の士会が取り組む知見を得て一歩でも歩みを進める年度としたい。

1）平成29年度事業計画及び予算案

Ⅰ　平成29年度重点活動項目

平成29年度重点活動項目

各地で展開される地域包括ケアシステムの体制づくりへの貢献とそれに資する人材の育成

今後、各地で地域包括ケアシステムの体制づくりが展開されていくことになるが、その体制づくりに貢献できるような人材育成と人材配置が必要となる。協会は、地域包括ケアシステムが高齢者対応にとどまらず、障害児者、さらにはその地域に暮らす人にとって有益な体制であると考えている。その点から平成 30 年度診療報酬・介護報酬の同時改定および障害福祉サービス報酬改定は、作業療法にとって大きな転換点となる可能性がある。それを踏まえて、平成 30 年度診療報酬・介護報酬の同時改定、障害福祉サービスの報酬改定に関する要望・渉外活動の強化、介護予防・日常生活支援総合事業への作業療法士の参画促進、障害福祉領域への作業療法士の配置促進、これらを実現するために養成教育制度の改革提言と卒後教育の充実および他職種や当事者との協働の形を創り上げる一年とする。

また、「第２次作業療法５ヵ年戦略（2013-2017）」がその最終年であることから、次期中期計画を策定する。

1. 作業療法の学術の発展への取り組み
   1）社員総会の承認により現行法「理学療法士及び作業療法士法」改定を視野に入れた協会の作業療法定義を改定……（#3　学術部学術委員会）
   2）生活行為向上マネジメント事例登録の推進（研修会開催を含む）……（#34･35　学術部学術委員会・生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会・教育部生涯教育委員会）
2. 作業療法士の技能の向上の取り組み
   1）学校養成施設指定規則等の改定施行の準備としての議論とその取りまとめ……（#13　教育部養成教育委員会）
   2）『作業療法臨床実習指針（案）』作成、『作業療法臨床実習指導の手引き第5版』発行・周知……（#16　教育部養成教育委員会）
   3）『WFOT 作業療法士教育の最低基準 2016 年改訂版』翻訳･周知……（教育部養成教育委員会･国際部 WFOT 委員会）

3. 作業療法の有効活用の促進に向けた取り組み
1)認知症施策推進総合戦略等への参画状況の把握と実践事例の集約により作業療法の役割明示と参画を促進
……（#31関連　認知症の人の生活支援推進委員会）
2)医療・介護における包括報酬・認知症も含む短期集中リハビリテーションでの作業療法の役割を明示
……（制度対策部保険対策委員会・学術部学術委員会）
3)地域ケア会議、介護予防・日常生活支援総合事業への参画推進のために都道府県士会との協働強化
……（#28･29　地域包括ケアシステム推進委員会・47 都道府県委員会）
4)生活行為向上マネジメントを難病、発達障害、精神障害などへ適用した事例の集積
……（#34･35　生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会）
4. 作業療法の普及と振興に関する取り組み
1)就労支援関連の研修会を他団体と共催……（#69　制度対策部障害保健福祉対策委員会）
2) 第 32 回国際アルツハイマー病協会国際会議（ADI 2017）へ出展・参加し、日本の認知症作業療法を世界に向けて発信
……（#69　認知症の人の生活支援推進委員会）
5. 内外関係団体との提携交流に関する取り組み
1) 全国リハビリテーション医療関連団体協議会等の渉外活動を深め、平成 30 年度同時改定に向けた国への要望・提言を強化
……(制度対策部保険対策委員会)
2) 東アジア諸国との交流会（Exchange Meeting with East Asian Countries: EMEAC）などこれまでのアジア諸国と　の提携・交流を検証し、今後の方向性を明示
……（#67　国際部国際委員会）
3)2020 年パラリンピックへの協力に向けた体制整備
……(特設委員会の設置)
6. 大規模災害等により被害を受けた人への支援
1) 士会等と協力した災害訓練（災害シミュレーション）の実施
……（#77　災害対策室）
7. 法人の管理と運営における取り組み
1)次期中期計画の策定……（事務局企画調整委員会）
2) 協会組織率向上に向けた対応（新卒有資格者の入会率向上）
……（事務局）
3) 生涯学習・制度対策を含めた会員管理システムの構築
……（事務局・教育部・制度対策部）
4) 事務局組織体制の強化（常勤作業療法士の配置）
……（事務局）
5) 託児所設置等、子育て会員が参加しやすい学会･研修会の体制整備
……（事務局福利厚生委員会）

平成 29 年度一般社団法人
島根県作業療法士会総会報告

事務局長　陶山　幸弘

平成 29 年 6 月 4 日（日）大田市にある島根県立男女共同参画センターあすてらすにて出席者 62 名､委任状:324 通を得て､無事総会を執り行うことができました。多くの方にご出席頂き、また委任状を提出頂き誠にありがとうございました。

島根県作業療法士会の会員数は今年度 459 名を数え、500 名を越える日も間もなく来るものと思われる。そのような中、会員の皆様にどのようなリーダーシップを推し進めるべきであろうか？また、会員の皆様のニーズはどこにあるのだろうか？そのようなことを各理事が考え今年度の研修会やイベントなどの事業を企画して頂きました。是非、議案書を再度ご覧頂き積極的に活動に参加いただけると嬉しく存じます。

審議された議案書はすべて承認をいただき本年度の事業は走り出しました。新しい理事も加わり新しい士会が走り出したところであります。会員諸氏の後ろ盾となり、臨床実践や社会貢献活動がより活気あるものとなるよう歩みたいと考えておりますので、なお一層のご協力をよろしくお願いいたします。

※ご意見や質問などお気軽にお問い合わせ下さい。

事務局メールアドレス：shimaneot@gmail.com

島根県認知症作業療法推進委員と県士会認知症特設委員会の設置について

介護老人保健施設サンホームみずほ　山崎　晃
えだクリニック　黒田曜嗣

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より当協会の事業推進につきまして、県士会員の皆様のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、今回島根県作業療法士会において、認知症作業療法推進委員と認知症特設委員会を設置致しました。
簡単ではありますが書面にてご説明させて頂きます。

【作業療法推進委員について】

現在、世界保健機関が発表した報告書によると、世界の認知症有病数はおよそ3600万人に上るとされ、日本も、2025年には認知症有病者数が約700万人になると推測されており、喫緊の課題となっています。その為、国は2015年に認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）を策定し、今後、認知症を支える為のリハビリテーション専門職として作業療法士は期待がかかっています。日本作業療法士協会としても認知症の人の生活支援推進委員会を中心として活動しており、平成28年度より各都道府県作業療法士会との円滑な連携・情報交換を目的として、各県に認知症作業療法委推進委員を配置する運びとなりました。また、島根県作業療法士会では合わせて認知症特設委員会の立ち上げを行い、島根県内の認知症関連のデータ収集や、認知症作業療法研修を通して県士会員の皆様の一助となるよう取り組んでいきたいと思っております。

【平成29年度の取り組みについて】

・認知症アップデート研修の実施

認知症委員会の今年度の取り組みとして「認知症アップデート研修」の実施を考えています。認知症アップデート研修とは、分野に関係なく全ての作業療法士が認知症に関する最新かつ最低限の知識を有する事を目的としています。アップデート内容は、日本作業療法士協会認知症の人の生活支援推進委員会が作成したシラバスを用いて、全国共通で行われる予定となっています。具体的な内容に関しては、同封のチラシを参考にして頂けたらと思います。この研修は、下記のマークが入っており、研修会参加者には、修了証を発行致しますので、県士会の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

○第2回認知症アップデート研修予定
2017年10月28日（土）
会場：リハビリテーションカレッジ島根

「認知症アップデート研修」
2016
【包含済】
（一社）日本作業療法士協会
認知症の人の生活支援推進委員会

・国際学園久野真矢先生認知症研修会の実施

本年の9月9日に国際学園の久野真矢先生をお招きして、「地域で認知症を支える」をテーマとした研修会を企画しています。詳細に関しては、後日ご連絡致します。宜しくお願い致します。

【認知症特設委員会連絡先】

その他、ご質問やご意見などがありましたら、下記の連絡先まで宜しくお願い致します。

認知症特設員会連絡先　Mail：shimane.ninchisho.ot@gmail.com

2017年度作業療法普及啓発事業について

作業療法推進局　事業部
堀江　利光　岩根　寛

昨年は日本作業療法士協会設立50周年事業として松江イングリッシュガーデンに於いて「2016作業療法フェスタ」を開催致しました。多くの皆様のご参加、ご協力ありがとうございました。

今年は普及内容と対象を具体的に、「県民の皆さまへ作業療法の認知度を高める活動」と、「関連職種の方へ作業療法の理解や役割の理解を深める活動」に分けて開催致します。
引き続きご参加、ご協力のほどよろしくお願い致します。

・・・

作業療法士による自動車運転支援について

益田地域医療センター　医師会病院　和崎　博典

運転と作業療法特設委員会の島根県窓口担当の和崎です。

近年、障害者の自動車運転再開支援について全国的に関心が高まってきています。自動車運転は最も重要な IADL 活動でありすべての分野の作業療法士は対象者の地域生活を維持する一手段として重視すべきものです。しかし、運転は道路交通法における運転免許制度に規定された作業活動であり、大きな責任が伴います。また、運転は他者とのコミュニケーションの側面を持ち、そのスキルによりリスクは変化します。それゆえ自動車運転の相談・指導には一定の知識と技術がかかせません。「運転と作業療法研究会」は、こうした動きを受けて、運転と地域での移動支援を作業療法の一分野として確立させることを目的として一昨年に設立されました。また、日本作業療法士協会では今年度より「運転と作業療法委員会」を設け、運転リハビリテーションを円滑に行えるよう各機関に働きけるなど活動が始まっています。

この度、運転と作業療法委員会より「運転に関する作業療法士の指針」がリリースされました。この「指針」は運転に関する作業療法の基準を示すことを目的として作成されています。内容としては、関わる際の基本的事項や OT として知っておくべき関連法規、一般的手順、各段階での注意すべき点などを【推奨】と【根拠および要点】で記載されていて、とても分かりやすい内容になっています。

運転に関する作業療法士の指針については日本作業療法士協会のホームページに公開されていますのでご覧ください。

運転と作業療法委員会の今後の活動としては､県内の状況調査（運転を取り扱う機関の状況）や「指針」を各地域の内外関係者に広報、事例の支援などできたらと考えています。

皆様にもご協力してご協力のほどお願い申し上げます。

福祉用具研修会への参加

東部島根医療福祉センター　足立　貴哉

平成29年3月5日(日)にJCHO玉造病院にて行われた、事業部主催の福祉用具研修会に参加しました。研修内容として、「クッション作成から学ぶシーティング～シーティングの為の評価～」、「車いすクッション作成」についての講義を受け、さらに後半では実際にクッション作成をさせていただき自分自身とても貴重な場となりました。

先ずは、車いすのシーティングの必要性について、①誰が②どこで③どれだけの時間④何のために～といったように、目的を明確にする事が大切だと感じました。また、その車いすを利用する人を中心として、用具を目的的・身体的・環境的・社会的に最適化するプロセスをフィッテングと表現するそうです。その中で正しいフィッティングとは、車いすを使用する状況と目的に応じて方法を変化させる事であり、休息と活動の目的的な視点を重要視して考えなければならないと思いました。

シーティングの評価では、測定、マット評価などを行ない、その中でHAT (H:Head A:Arm T:Trunk) ユニット評価、骨盤・股関節の可動域、座位バランス、目的別シュミレーションを行なう必要性について詳細に学びました。また、座位での評価では、体幹の安定機構として働くコアマッスルの重要性について演習を交えて教えて頂きました。

研修後半では、受講者其々の生活場面を想定しながらのフィッティングについて考え、自分専用のクッション作成を行ないました。作成前に座圧を測定し素材選定後、ランドマークを記し、カッティング、各素材の接合作業を行ないました。その後、布を貼り付けタッカーで止め、再度座圧測定を行ないました。自分自身、目的に合わせたクッションを作成出来た事で、改めて評価の必要性を実感しました。それと同時に、シーティングに対する意識や考え方も変わってきたと思います。

最後に、今回の研修会で学ばせていただいた事を、実際の臨床場面で活かす事が出来るように様々な視点を持って取り組んでいこうと考えています。

第二回 ツナガル 教育

生涯教育部
部長：川上拓也

-目指すべき指導者を考える-

平成 29 年 5 月 14 日（日）に「第 2 回ツナガル教育」を開催しました。当日は、東部西部から 24 名にご参加頂きました（参加者経験年数：4-30 年）。

研修会では、島根県作業療法士会の泉 靖司 会長に臨床実習指導について、ご自身のご経験を中心にお話しを頂きました。泉先生は、これまで約 100 名の学生をご指導されています。確かな経験に基づいたお話は、共感できることや指導する上で参考になることが多く、充実した内容のご講演でした。

また、今回は第二部として、20,30,40 歳代の臨床実習指導の経験者に、指導における悩みや指導方法などをシンポジウム形式にて行いました。それぞれの年代に応じた悩みや課題を参加者と一緒に共有し、それぞれが目指す指導者像について考える良いきっかけになったと思います。

この研修会の特徴の一つは、養成校の先生もご参加頂けることです。指導に対する思いや意見を直接お聞きすることは滅多にありません。ご参加頂いた先生方からのコメントは、指導に役立つ貴重な意見であり、とてもありがたい言葉でした！

最後に泉先生から「学生には今できる最善を提供して欲しい。（作業療法の）誇りと情熱を伝えてください。」と熱いメッセージを頂き閉会となりました。

島根県作業療法士は 500 名を超えようとしています。しかし、この人数は他県に比べて少ないのは言うまでもありません。ですが、少ない人数は大きなメリットでもあります。臨床実習指導は、これからの作業療法士を育てるだけでなく、島根の作業療法の質向上にも「ツナガル」重要なものです。そのために、指導者は最善を提供できるよう励んでいく必要があります。参加者の多くから「ぜひ次回も参加したい」という言葉を頂きました。次回の開催時期は調整中ですが、必ず第三回も開催します！
次回も多くのご参加をお待ちしております！！！

新理事長あいさつ

新理事　藤井　寛幸

現在、私は株式会社 Community Care に所属し、雲南地域を中心とした地方の医療・福祉の為に働かせて頂いております。

地域のフィールドにおいてリハビリテーション専門職が多方面よりこれまでにない大きな期待を寄せられているのは既にご周知の事と思います。

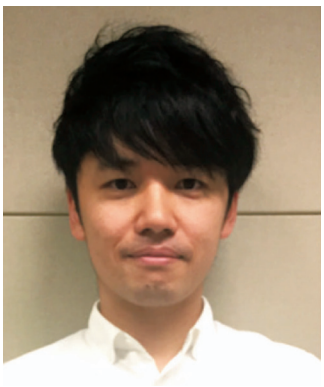
私が日々取り組ませて頂いている主な活動として、訪問リハビリテーション、サロンでの健康講座、高校で地域医療の魅力を伝える授業、地域の健康調査などがあり、様々な形で地域のフィールドに携わることができています。

地域住民の皆様と関わらせて頂く中で、作業療法士の「自助・互助」の視点から、生活行為をマネジメントする専門性は強みであり、またその人の主体性を支える作業療法士だからこそ出来る活動は多岐に渡ると考えています。

これらの活動で得た経験を活かして今まで以上に地域医療・福祉に作業療法士が参画できる仕組みづくりを県士会を通じて実践して行きたいと思っております。

経験不足も否めませんが、拙いながら精一杯努力させて頂く所存です。

何卒、宜しくお願い申し上げます。



新理事　元廣　　惇

この度、新たに島根県士会の理事を務めさせて頂くことになりました、島根リハビリテーション学院、作業療法学科、専任教員の元廣惇と申します。資格取得後は主に身体・老年期障害領域の総合病院で急性期、回復期、維持・生活期で臨床に従事し、その後現職へ至っています。

また、現在は教育活動の傍ら、（株）Community Care 様で臨床指導担当として関わらせて頂き、島根大学大学院医学系研究科にて、学習や高次脳機能に関する研究に従事しています。社会活動として、今日までいくつかの研究会や高校、専門学校などで講師として携わらせていただいており、一般、医療従事者其々に対するセミナー、授業等を通じて、リハビリテーション、作業療法の魅力や価値を伝える活動を行ってきました。

「作業療法」はこれからの超高齢社会で、益々必要とされ、且つ時代のニーズにマッチした概念であると確信しています。教育部での活動を通じて、作業療法の素晴らしさを多くの方に知って頂き、また、作業療法の発展に広く関わる活動が行えればと考えています。若輩ではございますが、皆様何卒ご指導くださいますよう宜しく御願い致します。

たすきリレー

松江市立病院

介護老人保健施設　昌寿苑さんから紹介されました。松江市立病院です。

平成 17 年 8 月に松江市灘町から現在の松江市乃白町に移転してから早くも 12 年が過ぎました。ベッド総数 470 床で、「愛情、信頼、奉仕」をモットーに急性期から亜急性期のリハビリや緩和ケア病棟でのリハビリを担っています。現在のリハビリテーション部のスタッフ数は OT8 名、PT14 名、ST3 名です（OT は 1 名新人さんを迎えました）。また、部門は異なりますが、精神科作業療法・精神科デイケアの担当で OT1 名が在籍しています。入院患者のみですが（一部実施しない疾患あり）土曜日もリハビリを実施しており、対象疾患、障害の程度も様々ですが、リハ医の丁寧な指示のもと日々切磋琢磨して業務に励んでいます。各種委員会、カンファレンスなど直接業務以外の仕事も多いですが、ワークライフバランスを重視した働きやすい職場だと思います。

次は松江総合医療専門学校さんよろしくお願い致します

こなんホスピタル

こんにちは。えだクリニックさんより紹介されました、こなんホスピタルリハビリテーション科です。私たちは患者様に寄り添い、感動を与えられるようなリハビリを目指して日々、関わっています。

次は、リハビリテーションカレッジ島根さんよろしくお願いします。

便利グッズ♪

～日常生活編～

今回は便利グッズとしてスマホリングを紹介したいと思います。今までスマートフォンが手から滑り落ちてしまい、画面を割ってしまったという経験をされた方は少なく無いと思います。こちらはスマートフォンの落下を防止してくれる便利グッズです。リングに指を通して引っ掛けながらスマホを操作することで誤って滑り落としてしまう危険性が減少します。また病気やケガなどで指に力が入りにくい場合や握力が入りづらい方でも弱い力で安心して使用できます。とても便利な商品なので皆さんにぜひお勧めします。

ポイントとして、辛味が好きな人は豆板醤をお好みで足して調整、お子さんも一緒に食べる時は豆板醤の代わりに味噌を使っても良いです。
パセリなどを盛りつけの時に散らすと見栄えがより良くなりますよ。是非試してみて下さい。

“男の料理”

サバ缶を使った簡単アクアパッツァ

調理工程が多そうなイメージでしたがサバ缶を使用して簡単に作れました。
下準備として玉ねぎをみじん切り、ミニトマトは半分、ニンニクはみじん切り、しめじは石づきを切り落としてほぐします。
オリーブオイルを多めにフライパンに入れ熱します。その後、玉ねぎ、ニンニクを炒めます。火が通ったらしめじ、ミニトマト、サバ缶を汁ごと入れます。調味料として白ワイン or 調理酒を大さじ2、味噌か豆板醤をお好みで入れて塩コショウを少々足します。入れたらフライパンに蓋をして弱火で10分程度煮込めば完成です。
調理時間は15分程度でした。

ジャスミンのちょっと一言いいかしら

新しい県士会

こんにちは。気付けば三十路のオネエ系、ジャスミンよ。今年度もこの連載の枠をいただいたわ。ありがとう、大変光栄よ。前回も書いたように未だにウォーキングしています。中途半端に体重もありますので、靴下も靴も直ぐにすり減り穴が開くわ。じきに買い替えなければなりません。こうして流通は生まれるのね。まさに消費社会だわ。

さて、今回も県士会総会に参加しました。毎年お邪魔しているので、ナビがなくても行けるようになりました。あすてらす。駐車場も大体わかります。あすてらす。

総会後には泉前会長より後進に向けた講演がありました。前会長は今まで県内のOTの集まる場所、悩みを共有する場所を作りました。県内OTが活動しやすいように地固めをしてきた。時には県内各所にお願いに行き、時には慣れないパソコンに翻弄されデータ作成に追われながら。講演を通して数十年間県内OTの居場所確保、地位確立のために活動してこられたのだと知りました。最後に前会長は言われました。自分の退任と共に県士会第1章は幕を閉じ、新たな第2章のはじまりだと。発展させるも後進の役割と。

役員改正とともに始まる新しい県士会。非力ながら広報という形で貢献していくわ。もう新人ではない自分のポジション。徐々に大きくなるポストに、色々葛藤もあるけど、逆立ちしても自分は自分にしかなれません。力まずオネエのまま行くわよ。今年も一言言わせてもらうわ。よろしくね。

会費納入のお願い

皆様のご協力で納入率100％まであとわずかとなりました。心より感謝申し上げます。
まだ納入がお済みでない方、何卒県士会運営にお力添えよろしくお願い致します。
いい県士会、いい職場のためにあなたの力を。　財務部部長　石川

お問い合わせ
島根県作業療法士会事務局
メールアドレス：shimaneot@gmail.com

平成29年７月25日　現在　施設数126　会員数498名

一般社団法人 島根県作業療法士会ニュース　年３回発行
□編集担当　白鹿真之介・石倉健一・岩田竜太・足立貴哉・山崎真梧・高木良太・和久利洋平・長谷川藍
山根結衣・石田敦史
□投稿（400字程度）、提案、情報提供を歓迎します。

発行所　〒692-0011　島根県安来市安来町899-1
一般社団法人 島根県作業療法士会広報部 社会医療法人 昌林会（TEL 0854-22-1234　FAX 0854-22-5827）
発行者：小林　央／編集者　石倉健一・白鹿真之介
印　刷：障がい者支援施設　授産センターよつば（〒690-0131　松江市打出町43）